

アドラー心理学を学ぶ教育関係者の現状

山本卓也 (岡山)

要旨

キーワード :

1. はじめに

アドラー心理学が野田俊作氏(日本アドラー心理学会認定指導者・前日本アドラー心理学会会長)より日本に伝えられて 25 年以上が経ちます。以来、全国各地で多くの教育関係者がアドラー心理学を学び、実践されています。そこで今回、全国で活動しているアドレリアンの教育関係者の方々の現状を知り、アドラー心理学が教育活動においてどのような場面に有効であるか、またその際に活用する技法や、参考となった講座などとの関連性を知ることが目的としてアンケートに答えてもらい、集計、考察を行いましたので報告します。

2. 調査方法

アンケート用紙を作成し、地方理事や自助グループのお世話役の方々、アンケート送付の協力を名乗り出てくださいました。またメールアドレスが分かる方にはメールでアンケートを送信しました。四国地方会には私自身が参加しましたので直接用紙をお渡しし記入、回収しました。

3. アンケート回答者数

今回 65 名の方々にご回答いただきました。

4. アンケート内容

今回作成したアンケート用紙の内容については以下の通りです。なお、実際のアンケート用紙からは筆者の連絡先など本稿執筆に関係のない箇所は削除しています。

アドラー心理学を学ばれている教育関係者に関する現状調査

この調査は、アドラー心理学を学びながら教育現場で活動を行っている、あるいは行おうとしている方の状況について調査することを目的としています。調査結果は、本年の日本アドラー心理学会総会での「一般演題発表」として、発表する予定です。データは、統計的に処理しますので、思ったままを教えてください。

よろしくご協力をお願いいたします。なお、ご質問等ございましたらご遠慮なくご連絡下さい。

以下の質問にお答えください。番号をふってあるものは番号でお答えください。それ以外のものについては直接ご記入ください。

1. 性別：(①男 ②女) … ()
2. 年齢：(① 10代② 20代③ 30代④ 40代⑤ 50代⑥ 60代⑦ 70代以上) … ()
3. 学歴：(①博士②修士③学士④その他 ()) … ()
4. 出身学部 (大学・短大・大学院等での専攻をお答えください。
(学部 学科 専攻)
5. 大学で履修した心理学関連の科目は何でしたか。(複数回答可)
() () ()
() () ()
() () ()
6. 取得免許 (複数可)：() ()
() ()
() ()
7. アドラー心理学会認定資格：(①カウンセラー②心理療法士③指導者
④パセージリーダー(家族コンサルタント)⑤もっていない) … ()
8. 勤務年数 (講師等含む)：(① 0～5年② 6～10年③ 11～15年④ 16～20年⑤ 21～25年
⑥ 26～30年⑦ 31年以上) … ()
9. 現在、生徒指導・教育相談・教師カウンセラー等の分掌に就いていますか。
(①はい ②いいえ) … ()
10. あなたがアドラー心理学を知ったのは何年前ですか。
(① 0～5年② 6～10年③ 11～15年④ 16～20年⑤ 21年以前) … ()
11. 他の学派と比較してどのような点に惹かれましたか。あてはまる番号すべてをお答えください。
⑨を選んだ方はご記入ください。
【①わかりやすい②対人関係がよくなった③人間の心についての疑問が氷解した④友だちができた
⑤理論的である⑥実践的である⑦講師がよい⑧試験がない
⑨その他 () ⑩特になし】 … ()
12. アドラー心理学がもっとも役に立っているのはどの場面ですか。⑨を選んだ方は直接ご記入ください。
【①学校経営②学年経営③学級経営④生徒指導⑤教育相談⑥進路指導⑦学校行事⑧各種会議
⑨その他 () ⑩特になし】 … ()

13. その際に役に立った、また使用した技法（代替案の提示・共感・傾聴・開いた質問・目標の一致・早期回想・ロールプレイ・解釈投与・性格（ライフスタイル）分析など）がありましたらお答えください。

()

14. 現場で指導をするときに参考や助けとなった講座やワークショップがあればその番号をお答えください。①を選んだ方は直接ご記入ください。

【①基礎講座理論編②基礎講座応用編③パセージ④スピリチュアルワーク⑤かささぎ座

5. アンケート結果

アンケート結果については以下の通りです。

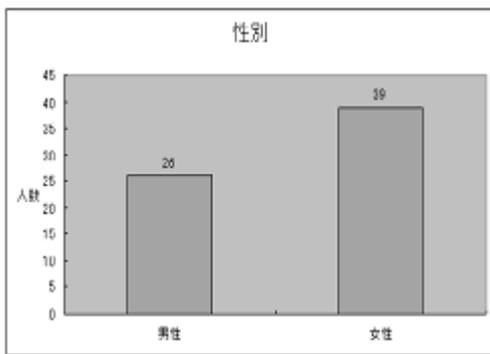


図 1. 性別

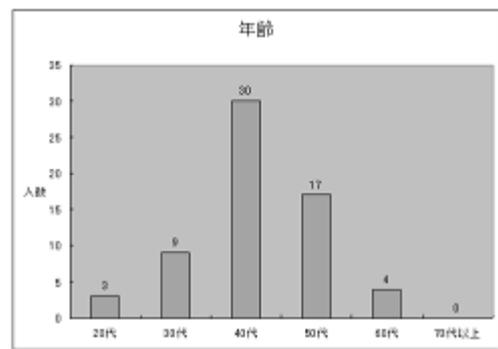


図 2. 年齢

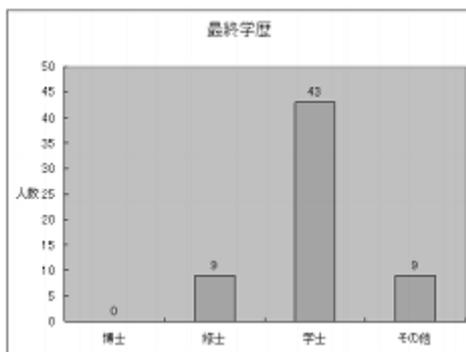


図 3. 最終学歴

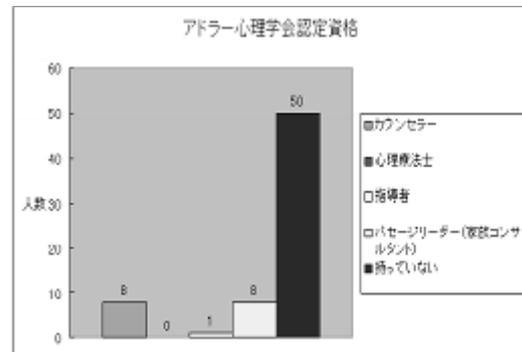


図 4. アドラー心理学学会認定資格

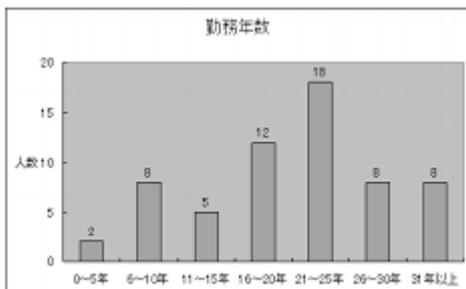


図 5. 勤務年数



図 6. 生徒指導・教師カウンセラー等

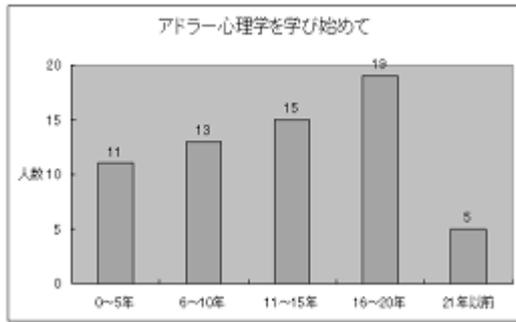


図7. アドラー心理学を学び始めて

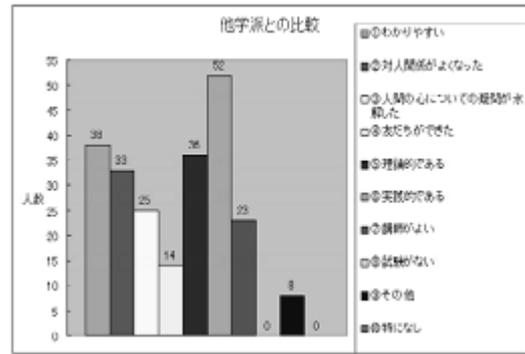


図8. 他学派との比較

○その他にあった回答

- 自分や他人を責めなくなった
- 生徒と権力闘争に陥らなくなった
- HOW TO だけでなく、理論なども系統的に学習できる機会がある
- 援助の役に立つ
- 原因ではなく目的論的であるから
- 楽しくて心が楽になった
- 娘とのことで良さを実感した
- 人に頼まれない限り援助しない May I help you? の考え方などこれまでにない考え方に心惹かれた
- 目的から行動を理解する点

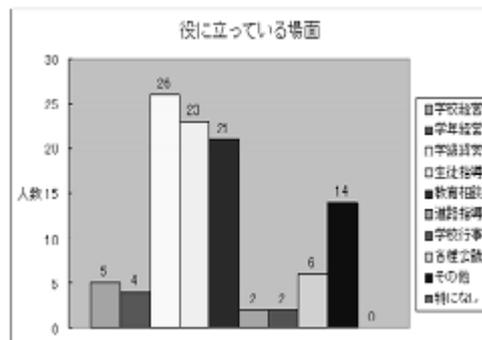


図9. 役に立っている場面

○その他にあった回答

- 授業での生徒との対応
- 生徒との日常的対応
- 教科指導
- 保護者との話
- 家族との関係
- 生徒や保護者との対人関係
- 部活動
- 保健室内での対応

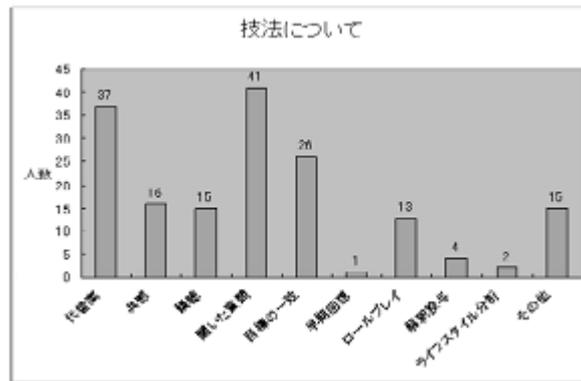


図10. 技法について

○その他にあった回答

- やさしくきっぱり
- 結末の体験（自然の結末）
- 正の注目
- お願い口調
- 課題の分離
- エピソードに基づいて話を聞く
- 勇気づけ
- 対等な関係を築く
- 助言
- 宿題

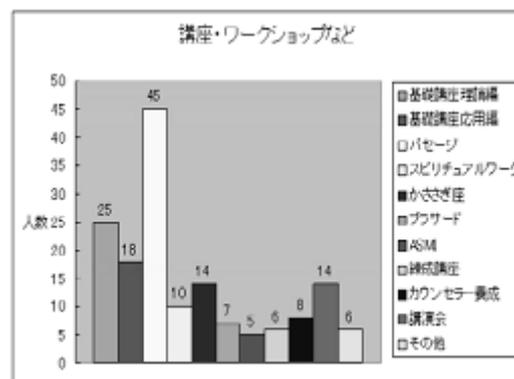


図11. 講座・ワークショップなど

○その他にあった回答

- ARW
- 自助グループでの活動
- フォローアップの会

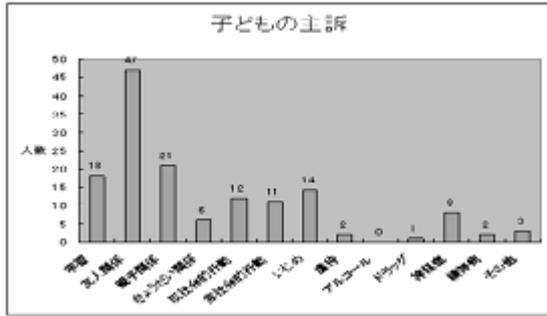


図12. 子どもの主訴

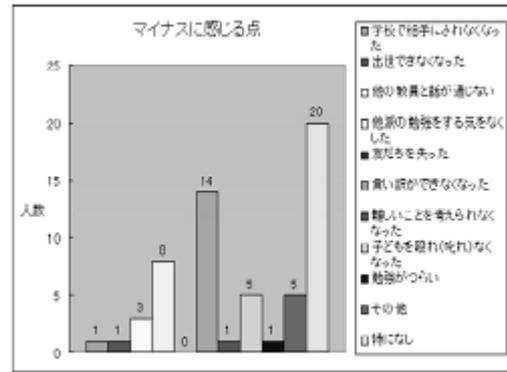


図13. マイナスに感じる点

○その他にあった回答

- お金がかかる
- 家族との時間が減った
- 厳しく叱らないので保護者が不安がる
- 自分の従来のやり方にますます自信がなくなり迷うようになった
- 学校の会議で何か決めるとき、他の教員の考えが自分の方向とあきらかに違う場合、自分の中で折り合いをつけるのが苦しい

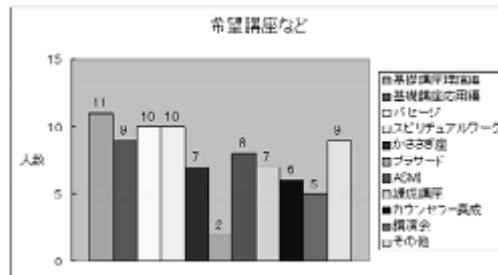


図14. 希望講座など

○その他にあった回答

- フォローアップの会への参加を継続
- ICASSI
- 教育現場の問題を扱った事例検討会
- もっと講演会を
- 聴く技術を身につけたい
- 教師向けのカウンセリング講座
- 学んだことを実践するための学習会
- アドラー心理学が一般に普及するように学校へ講師を派遣する企画が欲しい

<アドラー心理学を学ぶ動機>

- 家庭での悩みを野田先生に相談したことがきっかけ
- 教員になっ3年目のとき、これまでの手段（子どもたちを従える）では子どもたちがみんな学校に来なくなると思い、様々な書籍を探していたところアドラー心理学に行きついた

- 先輩や上司の教員に薦められて
- 「クラスはよみがえる」「トーキングセミナー」を読んで
- 勤務校の指導方法に疑問に感じて
- 自身が子育てに悩んでいた時にパセージ（スマイル）を受講したことがきっかけ
- 「良い人間関係」「体罰や怒りを使わない」という子育てを学びたかった
- いい教員になりたかった
- 自分が成長したかった、心理の専門職になりたかった、そのときに師と呼べる人に出会えたので学びを続けている

<自身の教育活動への影響や変化>

- 教師の仕事はよいリーダーになることであり、カウンセラーとしてふるまうことではないということが分かってきた
- 生徒が仲間だと思えるようになった
- 日々学ぶことがいっぱいで大変楽しい
- アドラー心理学のおかげでこの仕事楽しい、素晴らしいと思えるようになった
- 教師集団の中で貢献とか協力とかいうことを念頭において仕事をするようになった
- 児童や保護者に対して平等とか、仲間という感覚を持って接することができる
- 生徒と協力関係がとれることで、学級経営を楽しめるようになった
- 生徒を信頼して任せることを学んだことで、あらゆる教育活動が楽になった
- 会議での議事進行がスムーズに行えるようになった
- 生徒の不適切な部分より適切な部分を見ることができるようになった
- 生徒との関係に自信を持って対等にすることができた
- まず子どもの話を聴くことができるようになった
- 自分が触覚型であることを意識して、生徒理解に心がけている
- 児童にとって何が最善なことなのか、不完全である自分を忘れずに自分は何ができるのかを考える癖はついた
- 当たり前できていることへの正の注目ができるようになった
- 子どもの言動にあまり振り回されなくなった

6. 考察

<考察1: 技法と講座・ワークショップとの関連性>

指導の際参考になった講座に「パセージ」、「基礎講座理論編」、「基礎講座応用編」をそれぞれ45名、25名、18名が選択していました。用いた技法では「開いた質問」を41名、「目標の一致」を26名、「代替案の提示」を36名が選択していました。このことから教育現場において「基礎講座」で学んだ理論や応用の知識、また「パセージ」的な接し方をすることが有効な場面があり、その際「相手の話を聴く」なかで「開いた質問」「目標の一致」「代替案の提示」の技法を用いている教育関係者が多いと考えられます。

傾聴技法が有効であったという回答が15名でありましたが、これはパセージテキスト9-L、11-Lに「子どもの話を聴く」「さらに子どもの話を聴く」という項目があり、子どもの話に耳を傾け、子どもの考えや感情や意志を理解しようとする態度のことを「傾聴」として回答したものと

も考えられます。

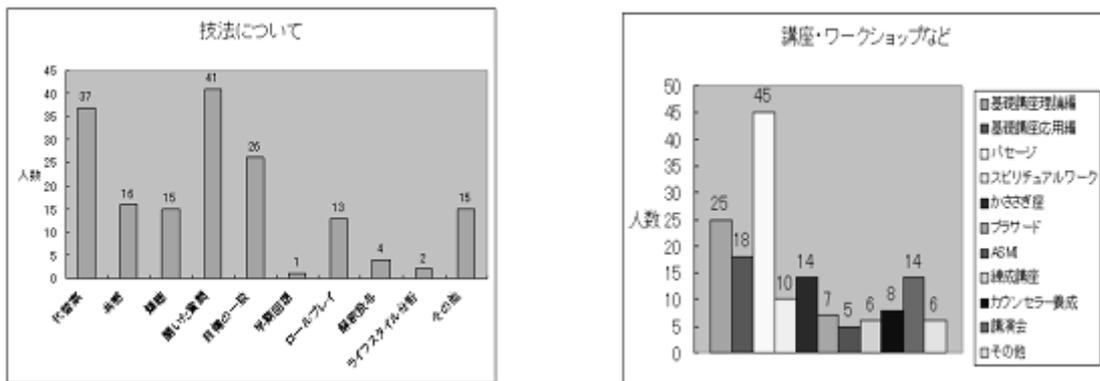


図15. 技法について／講座・ワークショップなど

<考察2：アドラー心理学の実践性について>

他学派と比較してアドラー心理学は実践的であるという回答は 52 名でした。また、アドラー心理学が役立つ場面として「学級経営」「生徒指導」「教育相談」を選ぶ回答が多く「学校・学年経営」「進路指導」「学校行事」「各種会議」を選んだ回答は少数でした。このことから、アドラー心理学は学級経営などのより生徒に近く、より日常的な場面に役立っていると考えられ、アドラー心理学の日常での高い実践性を示していると考えられます。

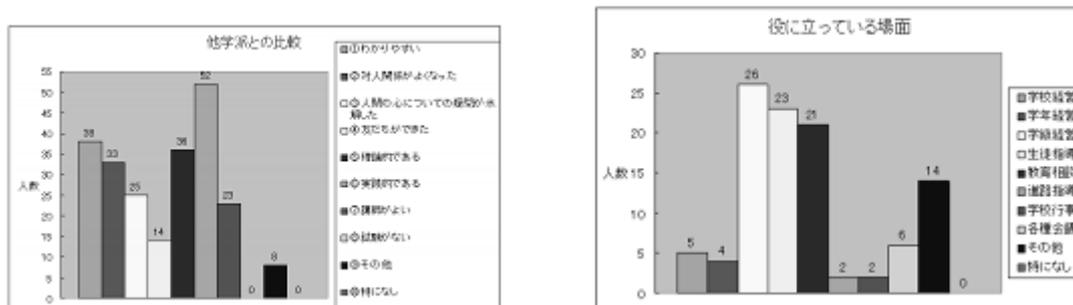


図16. 他学派との比較／役に立っている場面

7. 今後の課題

今回は広く教育関係者ということでアンケートをとりましたが、例えば保・幼・小・中・高・大のように校種を細かく分けてアンケートをとることによって校種別に見た時のアドラー心理学の教育現場での実態がより鮮明になってくるのではないかと考えます。

8. 謝辞

今回アンケートに答えた下さった方々に心より感謝いたします。地方理事の方々や自助グループのお世話役の方々には多大なご協力をいただきました。みなさまのご協力のおかげで 65 名分という多くの資料を集めることができました。アンケート作成の際には中島指導者に貴重な資料を提供していただきました。最後に高知の尾中理事にはアドバイザーとして適切で有益なご助言や励ましをいただき、本研究を進めるにあたり、大きく勇気づけをしていただきました。ここに

深く感謝申し上げます。

9. 参考文献

- (1) 野田俊作：子どもの話を聴く．Passege 1.3、9-L.
- (2) 野田俊作：さらに子どもの話を聴く．Passege 1.3、11-L.
- (3) 小塩真司・西口利文（編）：質問紙調査の手順．ナカニシヤ出版、2007.

更新履歴

2013年5月1日 アドレリアン掲載号より転載